



障がいを持つ子どものクラス活動・紙芝居によるお話

## CONTENTS

- 巻頭言 …P.1
- 現地活動報告  
フィリピン …P.2
- 支援で育つ子どもたち …P.4
- スポンサーの広場 …P.4
- 日本事務局から報告・お知らせ  
総会報告・決算報告 …P.5  
クリスマスカードのご案内 …P.6

## 隣人に対する優しい心と優しい手

聖書の中にサマリア人のたとえとして知られる物語がある。強盗に襲われて瀕死の状況にあった旅人を、助けて介抱したのは、ユダヤ人の忌み嫌うサマリア人であったというものである。それは、日常の具体的な状況の中で、身近に助けを必要とする人に愛を持って隣人となることを考えさせてくれる。

そういう意味では、HFI の支援のスタートもただ「隣人」になることを考えたものであった。身近な必要のあるところに、優しい心と優しい手を差し向けるという単純な動機である。だから、しばしば、「教育支援」よりも「生命救出」が順序ではないか、という声も耳にしたこともあったが、それは身近にそのような状況が生じてきたら当然のごとく考えていくことなのだろう。やはり今身近にある必要にまず応えていく、というのが、順序であろうと思う。

ところで、ノーマライゼーションということばは、1950 年代に使われるようになった。それは、障がい者(特に知的障がい者)も一般市民と同じ条件で援助されるべきである、という考え方で、障害の種類が異なっても、同じニーズに対しては同じサービ

スで対応する。また、知的障がい者が市民生活に適應するためにノーマルに教育するのではなくて、知的障がい者の生活条件をノーマルにしていく。こうした考え方が日本においても意識され実践されるようになったのは、1995 年、「障害者プラン～ノーマライゼーション 7 カ年戦略～」が発表されてからで、比較的最近のことであろう。

HFI の障がい児教育支援は、ノーマライゼーションの一環であるし、このプログラムは、今 HFI が身近な人間関係のつながりの中で直面し、優しい心と優しい手を差し伸べるように出会っている隣人の必要なのだ、と私は考えている。

HFI も NPO 法人認可 2 年目となり、今後の展開を模索するところであるが、経済支援基盤の充実によって、こうした教育支援のみならず、さらには「生命救出」といった幅広い支援を展開していけるようであればよいと思う。

(HFI 代表 福井 誠)